

ほのぼの

ネットワーク通信

第19号

発行者

第4期同期会会長 岡 ひろみ

2019年2月20発行



画 東江 順子

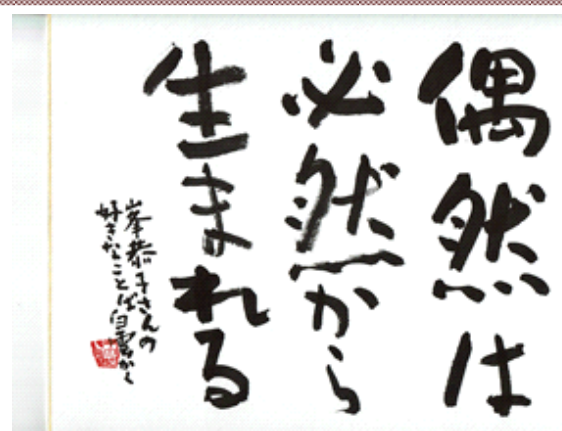
高さんから電話があり、本欄にピンチヒッターとして何か書くようにとの連絡があった。「ほのぼのNW通信」は今までに18回と号外を2回発行している。これは最初からの高さん、松井さんをはじめ、新見さん、江崎さんたちのおかげである。初めのころの紙面を見た。出ている皆さんの写真が若いことにまさにびっくり。どれほど読んでいただいているかわかりませんが、同期生が元気にしている報告の1つには、なっているのではないのでしょうか。お楽しみに。(14号からの新米編集担当岡本睦彦)

思い立ったが吉日・新たな挑戦

高 和美

現在の自分の年齢では、十数年前の方たちは隠居生活、老後の年金生活であったことでしょう。私自身退職後も働くとは夢にも思いませんでした。まだまだ元気、社会に貢献しよう、働こうという人々、いろいろな方がいらっしゃいます。私も社会保障制度の先細り、夢追い塾で学んだこと等を通して、後見人として、ケアマネとして働くことを思い立ちました。

趣味では60の手習いで新たな事を始めました。今までとは違った多くの出会いがあります。今後も思い立ったが吉日、周りに家族に迷惑をかけますが、一日一日を大事にいろいろなことに挑戦していきたいと思えます。



偶然発見した、偶然思いついたなどと言われますが、その偶然が生まれるまでには、数多くの体験や研究の積み重ねがあり、日々の研鑽がいかに大事であるか考えさせられます。

「軍艦島満喫ツアー」に参加して

神野 義朝

ほのぼのネットワーク2018年度のバスツアーで、昨年11月17日長崎の軍艦島に行きました。私は少しのミステリーに引かれて同期生・他期性ら18人と共に長崎に向かいました。

軍艦島とは正式には三菱石炭鉱業(株)高島工業所・端島^{はしまこう}鉱と言いつ炭を産出していた端島の炭坑跡です。

島の全容が戦時の軍艦に似ていることから軍艦島と呼ばれるようになったとの事です。

長崎港の沖合18kmに浮かぶ端島は南北480m東西160mで野球場5面程度の広さです。この小島から石炭が発見され年間4000tもの良質炭が採掘されました。

ピーク時は従業員とその家族等、約5,200人もの人が生活していたとの事です。この狭い小島の中でそれらの条件を如何にしてクリアしてきたかという事も、今日の関心の一点でもあります。明治・大正時代からの島作りから、東半分の工場設備の配置と西半分の住宅建築類の建設技術のレイアウト等々今日でも遺構の数々が素晴らしい技術として評価されております。

裏面下段に続く

ほのぼのネットワーク総会のご案内

日時 3月10日 (日曜日)

迎え 戸畑駅北口 10時出発

直接の方は10時40分に現地集合

場所 かんぼの宿 北九州 (若松区有毛)

10周年になります。全員の参加をお待ちしています。入浴できます。タオルを持参ください。

会費 4,100円 (一部補助があります)



アンテナを広げてみては？

松井 敬

昨年流行語大賞の候補となった、チョコちゃんの「ポーと生きてるんじゃないよ！」をよく見るのですが、身近なことで何故か知らないことがなんと多いことか。そこで、近くの神社の「なぜか」を調べてみました。▲まず、高見神社です。鳥の鷹と書く鷹見神社もあり、どこが違うのでしょうか。元は高見だったようですが、同名の神社が多く間違われることがあった為、本尊の神様を当地に案内したのが鷹だったのに因んで「鷹見」に変えたようです。▲次に、こんな辺鄙なところになぜ熊野神社があるのか。これは紀伊半島にある熊野神社を本尊とする分祀紀神社でしたが、あの八咫鳥がちゃんと飾ってありました。この八咫鳥も三人の神様を熊野の地に案内したとして運を導く鳥として敬われていますが、三本足のカラスで今では日本サッカー協会の旗印になっていますよね。わざわざ遠くに行かなくてもよいですね。▲それから、^{さかきひめ}榊姫神社です。ご本尊に姫を祀った神社が多いのにわざわざ姫を入れたのは何故か。榊姫とは平清盛の孫娘で、腰の下の病気に苦しみ、あの世で同じ病気で苦しむ人を助けたいと言って亡くなるのです。その時の付き人が平家の落人としてこの界隈をさまよっている時、里の人に助けられ、姫と同じ病気の人に姫の靈魂を宿した榊を拝ませると瞬く間に全快しました。近隣の人にも同様な救いを施したことからお祀りしたようです。驚きましたね。あの源平の時代の姫が今も地域の人に慕われているとは。何気なく拝んでいた神社なのですが、少し視点を変えて見ると当時の風景や歴史が思い浮かべられました。まず、よく今まで残っていたものだと先人に感謝しましたよ。▲こうして考えていくと、新たに「神社で柏手を打つのはなぜか」「鳥居はなぜあるのか」「その鳥は何なのか」と次々と疑問が沸いて、楽しみが増えました。▲皆さんの身近にもこんな話題があるのでは・・・？。アンテナを広げて探してみたいはいかがでしょうか。

軍艦島の今昔

中尾 三郎

新しい年が始まった。今年は途中で元号が変わります。こういう漢字のどういう意味の言葉が使われるのか気になるところです。まずは、平穏な年であるように祈りたい。

さて、昨年の四期生恒例のバスツアーのこと。道中マイクロバスの車内は子供の遠足さながらで、しばし浮世の喧騒を忘れるひとときでもあった。

日本の経済の動脈であった石炭産業の、最先端を走っていた軍艦島。昭和三十年代に入り石炭産業の斜陽に伴い、最後は閉山に追い込まれた。その昔に想いを馳せる旅でした。

それぞれの胸に去来する想いは違っていても、ある時期を賑わせ潤った島の風景は様変わりし廃坑跡の建物の佇まいは、風波に耐えただ無言で来島者を迎えていた。

ペンリレー ～終活その1～

新見 正康

私たち夢追塾4期生が出会ってから、はや10年になります。つまり、あれから確実にみんな10歳ずつ歳をとったこととなります。私も今年は6回目の年男です。72歳といえば、昔は相当な「年寄り」でしたし、私自身、若い頃はこんな年齢まで生きるとは思っていませんでした。

幸か不幸かここまで生きてはきたものの、残された時間はそう多くはありません。

家族や周りの人たちに迷惑をかけないように身の回りの整理をしておかなければとか、ポックリ逝くには何に気をつけるべしなど、「終活」という言葉がかまびすしいですが、なかなか実行するのが煩わしく先延ばしにしてきました。

その中で、一つだけ実行したことがあります。産業医大に献体の登録をしました。これは、「私の遺体を医学生への解剖実習に使ってください」というものです。70歳になった時、50年来続けてきた献血をすることができなくなったことにショックを受けましたが、献体はそれに代わる最後のご奉公というつもりです。

次回のペンリレーは峰 恭子さんをお願いします。



表面より続く



廃鉱後島は長い間放置されて、波風による荒廃が進んでいましたが、2015年に「明治日本の産業革命遺産群」の一つとして見直されました。これを機に観光客が多数訪れることになったとの事です。今回は先般の台風で上陸出来なかったことが残念でした。しかし、ガイドさんから島の詳しい説明を聞き、島にエンジンを付ければ今にも動き出しそうな錯覚を感じる程でした。島の外洋側が住宅地で、青い空と蒼い海の間に窓ガラスの無い高層のコンクリー壁が立ち並んでいる光景は正にSF映画を見ているような感じでした。

創業後合計1570万tを出炭した炭坑エリヤも往時の影は無くつぶされた坑口の上には巻上機の櫓が淋しく立っていました。又赤いレンガの頑丈な壁も雑草の下で深い眠りに入っております。軍艦島の雄姿に敬意を払いながら帰路につきました。